

会議記録(概要)

会議名	令和元年度 第1回三田市文化ビジョン検討委員会
日時	令和元年12月23日(月) 18時00分から20時05分
場所	三田市役所 6階 委員会室B・C室
出席者	田辺委員長、木村副委員長、服部委員、須増委員、門垣委員、山口委員、林委員 (7名/11名) (欠席) 阪本委員、加藤委員、小中委員、柳井委員
事務局等	西田地域創生部長 印藤同部市民協働室長(以下、部・室名を省略) 横溝文化スポーツ課長、山崎同課課長補佐、森鼻同課係長 (コンサルティング業者) ㈱地域環境計画研究所 綱本
傍聴者	なし
添付資料	レジュメ、資料1～資料5

会議概要

1 開会(18:00～)

2 報告

- ・会議の成立【資料1】
- ・委員・事務局職員紹介【資料2】
- ・傍聴報告 傍聴者なし・報道取材なし

3 会長および副会長の選出

- ・田辺委員長、木村副委員長を選出
- ・田辺委員長 あいさつ

4 市長あいさつ

5 諮問

「三田市文化ビジョンの策定について」【資料3】

6 協議事項

- ・会議録の取扱いについて
記名は「委員長、副委員長、委員」とする。
- ・出席委員自己紹介

(1) 三田市文化ビジョン策定計画の概要とスケジュール【資料4】

<事務局から説明【資料4-1～4】>

委員長：三田市文化ビジョンの計画期間を確認したい。

事務局：計画では10年間とする。

委員：兵庫県は計画ではなくビジョンとしたが、県議会の議決を取った。三田市の文化ビジョンは議会の承認はどうするか。

事務局：市長への答申後、市教育委員会での審議・意見を求め、その後市民へ公開・リリースしていく。市議会へは適宜進捗状況を報告する予定であり、議会の承認は求めない。

(2) 策定にかかるアンケート調査について【資料5】

<事務局から説明>

委員：対象団体について、指定管理者をしている団体等はアンケート対象から除外されるのか。

事務局：市民活動としては対象である。ただし、企業活動の団体は対象外としたい。

委員：対象とする芸術文化の範囲は、文化、観光、スポーツ、芸術、その他社会的な分野を含むのか。

委員長：芸術文化には項目名として学術を含んでいると明記して絞り込むのか。

委員：地域の祭りを見に行ったり、参加したということも含んで参加・体験・鑑賞の活動も入れたほうが良い。

委員：三田市の場合、ガーデニングをはじめとする緑の景観活動に関わる団体や皆さんの活動が全国的にも注目されるが、そうした活動もまた文化の一つと考えるのか。

委員：文化をどうとらえるのか、市としてはどの方向を目指すのか定めておいていたほうが良いのではないかと。目指すところに持って行く、着地点とするところのデータを取るには、もう少し設問項目を追加する必要がある。

事務局：事務局の対象とする文化の範囲は、娯楽や教養を含めた芸術文化を想定しているが、委員の皆さんに協議していただく中で具体的に対象を絞り込んで行きたい。

委員：アンケートの対象者を無作為抽出するのでは、障害者をはじめマイノリティーの方は外れやすい。また、郵送・紙ベースでもマイノリティーの方は除外されやすいので、対象者の抽出について工夫が必要である。

委員：対象団体について、市の文化施設等に関わっている団体よりも、関わりのない団体について、何故関わらないのかをアンケートするべきと考える。もう少し幅広く対象を設定してはどうか。

委員：今の親の世代がどれだけ子どもたちを文化の場に連れて行っているのか、また子どもたちがどれだけ文化に触れているかが判れば、将来に文化をつなぐ可能性を読みとることができるのではないかと。

委員：文化に対して参加や体験もあるが、支援のあり方、ファンディングやお金の面についても聞くほうが良い。

事務局：アンケートの原案にはあえてお金の問題や、共生の部分として特に障害者芸術に触れた経験等の設問は入れていない。委員の皆さんに協議していただきながら決定したい。

委員：基本事項の性別の設問は必要か。

事務局：性別は傾向を見るために必要と考える。マイノリティーの方への対応について次回に提示したい。

委員長：金銭的支援による文化の支え方については聞くべき。性別や年齢等の基本事項は市の方針により定型的なもので仕方がないとしても、新たな項目として検討してもよいのではないかと考える。

委員：ファンディングを含めた文化活動の支援は多くなっている。また、設問として対象は子どもを特別に意識して対象とするのではなく、高齢者や障害者を含むことにより、文化の共生について広がりが出てくると考える。

委員：普通の生活の中に文化があるまちを目指すのが良いのではないか。

委員長：正反対の意見であるが、文化的でない人はいない。市民の皆さんが今やっている文化的活動について教えてもらう聞き方が良いと思う。

委員：人間は文化的存在であるから、この検討委員会で議論する「文化」のとらえ方により、広くとらえるときりがないことから、絞り込む必要があるのではないか。

委員長：我々が文化を絞らない方が良いと思う。マンガやアニメは、20年前は文化だと言われていなかった。サブカルチャーもしかりである。文化をとらえるのは市民の側にあると思う。

委員：委員会で議論する文化を絞り込む材料がアンケートだと思う。例えば大学の学内ではダンスサークルが多くあるが、文化ホール等の文化施設とマッチングができていない現状がある。将来、これらの活動が文化となっていく可能性がある。そういう可能性を含む材料を拾い上げ、検討するための資料を得るのがアンケートと考える。

委員長：文化という言葉自体が漠然としており議論となる。歌舞伎は生まれたときは文化と評価されていなかった。そういう過去の事例を踏まえた可能性を考慮しながら、事務局には今後、アンケートの項目について検討されたい。次回はアンケートの内容の確認と地域伝統文化の継承について意見交換を行う。

7 その他

<事務局から説明>

- ・ 本日の議論を受けて、アンケート内容を整理し、事前送付
- ・ 次回開催、他、日程の調整について
- ・ 事務連絡

8 閉会（～20:05）

以上